

東急不動産(株) 経営企画統括部 主任 望月 巧実氏(31)  
広報・CSR推進部 広報グループ



# 元気 前面に広報活動に邁進

## 草の根でグループ連携向上図る

今年、創業60周年を迎える東急不動産は、同社のマンションブランド「ブランド」のリブランディング戦略を打ち出した。住宅供給では得意とする「街づくり」で多くの実績を残しながら、最近他の大手同業にやや押され気味なのを巻き返そうという狙いだ。会社の顔としてその先頭に立っているのが同社経営企画統括部広報・CSR推進部広報グループだ。望月巧実氏(31)は若さと元気で広報活動に邁進中だ。

### 創業60年

東急不動産・金指潔社長は今年2月に行われた創業時、五島慶太は一流の不動産会社になること、新しい分野へ進出することを理念に掲げた。このDNA、100年の計をわれわれは背負って

「炎」は「情熱」を表している。

「炎」は「情熱」を表している。望月氏はいう。「当社グループは107社、社員数は約1万6千人。このグループ間の連携を強化するために、コミュニケーションを密にし、草の根でグループ全体のポトムアップを図っている。中期計画で定めた『お客様』を中心に据え、グループ連携によるバリエーションの強化が示されたが、現場からは「ヨコのつながりが弱い」「コミュニケーション不足」が指摘されたのを受けて一昨年に発足させたものだ。サービスマン・ウェイ・フォーラム、次世代共創プロジェクト、被災地支援、駅伝大会などグループのコミュニケーションを横断的に統括する。

## 名刺には情熱を表す「炎」のマーク



望月氏がグループ会社のコミュニケーション向上の一環として取り組んでいるのが「クサノネプロジェクト」だ。中期計画では「お客様」を中心に据えたグループ連携によるバリエーションの強化が示されたが、現場からは「ヨコのつながりが弱い」「コミュニケーション不足」が指摘されたのを受けて一昨年に発足させたものだ。サービスマン・ウェイ・フォーラム、次世代共創プロジェクト、被災地支援、駅伝大会などグループのコミュニケーションを横断的に統括する。

2面に続く

「元気印」  
人と企業

「元気と勢いだけが取り柄」という言葉は意味深な言葉だ。いかようにも受け取れるが、会場がドツと沸いたように、金指社長の意図した「よくやっている」という評価がストレートに伝わった。広報グループも最大の褒め言葉を受け取った。

2012年3月期から2014年3月期までの中期経営計画「Value Innovation 2013」で

# 生きることと目標

## 久米 信廣の



06

人が生きるとはどういうことなのか?この問いに、人類は古来から思索を重ね、「目標に向かうこと」気付きます。その目標とはどんな目標でもいいのか?というような問い。目標でもいいから、持っているものでしょうか?目標が何を問わない、何でもいい、なんていうことがある訳はありませぬ。人の世である以上、一

人では生きられないのがこの世の中です。なによ

## 目標があれば 何でもよいのか

ピンであり、ここに人類が持つ目標の本質が隠されているのです。私たちが常に誰かと共同して命を承らえてきたので、すなわち、そういう環境にある私たちの目標が、学とか思想だったといえ

るでしょう。生き延びるということになります。そもそも、人類の歴史を振り返れば、「生き延びる」ということこそ目標であり、そのために共同する行為こそが大切だったのです。共に生き延びるという目標が、今の人類社会を作り上げた連結

ピンであり、ここに人類が持つ目標の本質が隠されているのです。私たちが常に誰かと共同して命を承らえてきたので、すなわち、そういう環境にある私たちの目標が、学とか思想だったといえ

## 目標にこだわり続け、徹する

ですから、第三企画は目標にこだわります。そして、徹底するのです。第三企画の目標は「人の前に明かりを灯す」ことによつて「300年後に生まれ来る子ども達に今以上の地球環境を残す」とです。

世の中には、ただ自分が儲ければいい、利益があればいい、それが幸せだ、と考える人がいます。でも、それだけでは、三つの条件を満たしていません。最近になって、ようやく経済成長一辺倒で突き進んできたことへの反省がでてきたようですが、目標をしっかりと持っている人は少ないです。

# 実を結ぶ「クサノネプロジェクト」



## 震災復興支援活動も

「クサノネプロジェクト」は確実に実を結びつつある。その一つが駅伝大会だ。約5キロの皇居を一周するもので、個人とチーム4人がそれぞれタイムを争う。昨年11月に行った第2回目の運動会にはグループ各社から約200人が集まったという。なかには合宿を張るチームもあり、最高タイムは個人は17分台、チームは76分台という優秀な成績をあげている。

「スポーツイベントだけでなく、様々なグループ間のイベントも積極的に行っている。『ハンズ』



## 平成17年入社「東急は親しみあった」 宅建は大学時代取得 兄も大手不動産

動産グループの「復興支援プロジェクト」を立ち上げた。500人くらいに上って大事かを学んだ。1回当たり30人ぐらゐを募集するが、応募者が多く抽選という。

「東日本復興応援プロジェクト」のメンバーとして、東日本震災のボランティア支援活動にも力を注いでいる。同社は2011年7月に東急不動産グループの「復興支援プロジェクト」を立ち上げた。500人くらいに上って大事かを学んだ。1回当たり30人ぐらゐを募集するが、応募者が多く抽選という。

「東日本復興応援プロジェクト」のメンバーとして、東日本震災のボランティア支援活動にも力を注いでいる。同社は2011年7月に東急不動産グループの「復興支援プロジェクト」を立ち上げた。500人くらいに上って大事かを学んだ。1回当たり30人ぐらゐを募集するが、応募者が多く抽選という。



## 野球に明け暮れた少年期 「体力を温存のため授業で居眠り」

望月氏は昭和57年、滋賀県湖南市(当時、甲賀郡甲西町)で3人兄弟の次男として生まれた。父は小学校の校長を務めていた。望月氏は幼少年期から野球に明け暮れた。3年生のときはピリピリと、たど平気で言う。「勉強? 親から言われていたけれど、勉強はしなくていいから野球だけに専念しろ」と。それ

## RBAは主軸 昨年は打率5割

同社はRBA野球大会の空白期間を経て平成22年には平成元年の第1回大会から再びベスト8に進出した。戦い過去3年の通算成績は5勝6敗、23回大会ではベスト8に進出した。望月選手は主軸として活躍しており、昨シーズンは6打数3安打3打点、打率5割の活躍。チームは投手力が弱いのが難点だが、谷口監督を中心にまとまりのあるチーム。東条英機似の熊本選手がムードメーカー。



担当しましたが、お客様が広島からクルーズに乗りつたのにはびっくりしました。ところが、入社2年目でサブプライム、そして3年目にリーマン・ショック。真先に影響が出ました。「広報の部署はいい勉強になります。会社の経営全般を見られるわけで、会社の長所短所も客観的に判断できる。電鉄を含めて『TOKEYU』ブランドは他のデベロッパーに負けない。敷居を低くしてワンストップでお客様対応ができる会社にみんなしてほしい」と夢を語った。

で、野球をする体力を温存するために授業はいつも寝ていました。通信簿はほとんどの科目は2とか3、体育だけは5でした。野球部では捕手で打席は4番から5番を務めた。「3年間でチームはベスト4が最高記録。当時村西(ドラフトで横浜ベイスターズに入団)を擁して甲子園にも出場した。比叡山高校が強くて、結局、成績がたたり大学は1浪を余儀なくされた。一人暮らしがしたくて浪人の末、大阪の関西大学に入学。野球はそのとき断念。高校のときでもヘルニアになりかけた限界でした。」



# 飯野 健司氏

## 日本不動産野球連盟(RBA)

### 顧問に就任

三井不動産株式会社  
取締役常務執行役員

#### プロフィール

昭和 53 年 4 月 三井不動産株式会社  
平成 16 年 4 月 ビルディング本部ビルディング営業一部長  
平成 19 年 4 月 執行役員 人事部長  
平成 21 年 4 月 常務執行役員 人事部長  
平成 23 年 4 月 常務執行役員  
平成 23 年 6 月 常務取締役 常務執行役員  
平成 25 年 4 月 取締役 常務執行役員 (現任)

## RBA の顧問に就任するにあたって

この度、弊社 池谷邦昭から日本不動産野球連盟の顧問を引き継ぐことになりました飯野です。歴史ある連盟の顧問に就任することとなり光栄でありますとともに責任の重さを痛感しています。連盟の目的である不動産業界の親睦・繁栄と発展の為に、微力ではありますがお役に立ちたいと考えています。

どうぞよろしくお願いたします。

RBA は、平成元年に第三企画(株)の呼びかけで発足し、今年で 25 年のアニバーサリー一年となります。その間幾度の社会経済環境の激変という荒波を乗り越え、連盟の発展に心血を注いでこられた久米社長はじめ第三企画(株)のスタッフや関係者のご尽力に心より敬意を表し、また会員各社の皆さまのたゆまぬご支援とご協力に感謝申し上げます。

「春風や まりを投げたき 草の原」、子規の一句はまさに野球の原点です。

私自身も当時、オーストラリア遠征メンバーに選抜されるべく懸命に球(まり)を追いかけていたことを思い出します。野球を愛する人が集まり、東京ドームを目指して共に汗を流

す、そこからチームワークが育ち、応援する仲間や家族が増え、チームを超えた交流や親睦の輪が広がる、まさしく RBA の掲げる理念は、野球の本質そのものではないかと確信しています。

日本は今、アベノミクスにより大きな転換点を迎えています。そして、内需の柱である不動産業界は、日本再生戦略の中でかつてない程の大きな役割を期待されています。豊かで希望の持てる国民生活を実現する為の、より強い使命感そして連帯感が不動産業界に求められています。RBA の活動が不動産業界のさらなる発展と連携の象徴になることを心から願ひ、顧問就任のごあいさつとさせていただきます。

平成 25 年 4 月

三井不動産株式会社  
取締役常務執行役員 飯野 健司



